様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：２１６０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０８２１

研究課題名（和文）台湾総督府による中国華南地域への医療支援

研究課題名（英文）Medical support to the South China from the Government-General of Formosa

研究代表者
中川　恵子（末永恵子）（Nakagawa, Keiko）

福島県立医科大学・医学部・講師

研究者番号：１０３１５６５８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,400,000円、（間接経費）　1,020,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、台湾総督府が財団法人博愛会を通して行った、中国華南地域への医療支援の実態を明らかにすることを目的とした。
1918年から1923年までに台湾総督府は、対岸の厦門、福州、広東、汕頭の都市に、日本人、台湾籍民そして中国人を対象とした博愛会医院を設立した。これは総督府による外交戦略でもあった。第一にその医院の経営について、日本人、台湾籍民、中国人の患者比率や医療費を免除された患者の割合などをさぐった。さらに、日中戦争が華南にも及ぶと博愛会は、防疫や現地民への宣撫など、軍への協力を惜しまず、仏印にも診療所を開設するに至る。戦争における博愛会の変容の実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study was intended that I clarified the actual situation of the medical care support to the South China that the Government-General of Formos let Hakuai-Kai to go.
Government-General of Formos established the hospitals for Japanese, Taiwanese citizen of family register and Chinese from 1918 through 1923 in Amoy, Fuzhou, Guangdong, the city of Shantou. This was a diplomatic strategy by the Government-General of Formos. Primarily, about the management of the hospitals, I investigated the patient ratio of the races or the ratio of patient exempted from medical expenses. Furthermore, when Japan-China War extends to the South China, Hakuai-kai performed the prevention of epidemics, established a medical office in Indochina and cnciliateted rocal people. I clarified the actual situation of the transformation of the in Hakuai-kai .

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：対支文化事業　医療支援　華南　台湾総督府　厦門　福州　広東　汕頭

１．研究開始当初の背景

日本の近代は、占領地域をアイヌ・モシリ、琉球、台湾、朝鮮、南洋群島、「満州」、「大東亜共栄圏」へと拡大させていった帝国の歴史である。その膨張に即応して日本の医学は、帝国に包摂された人々の身体と疾病を研究の対象あるいは治療の対象にしていった。ここでは、このような占領地域を対象にした医学研究、医療、防疫を植民地医学と総称したい。

研究代表者は、アジア太平洋戦争期の植民地医学に関する研究を行ってきた。研究の発端は、７３１部隊による非人道的な人体実験の衝撃であった。

その７３１部隊の歴史的背景を解明するには、「満州」における植民地医学のあり方（研究内容・医学教育・臨床実践・防疫活動）を解明する必要があることを感じ、植民地医学の事例として、「満州」において植民地医学を展開した満州医科大学の医学研究・教育について明らかにした（『戦時医学の実態―旧満州医科大学の研究―』樹花舎、2005 年）。

その過程で「満洲国」の植民地医学の把握と評価のためには、別の地域の組織との比較が必要なことを痛感した。「満州国」と他の日本軍占領地域における植民地医学の共通点と相違点に留意し、総体的に日本の植民地医学・医療を描く中で、植民地医学と地域の関係がより明らかになると考えた。

そこで、次に中国の占領地域の植民地医学を担った同仁会の研究に取り組んだ。同仁会とは、日本医学のアジア諸国への普及と人道的医療支援を目的に設立された財団法人である。

研究代表者は、「日中戦争期における同仁会の活動実態」の課題で科学研究費補助金基盤研究（C）を受けて現地調査等を行ってきた。これにより、同仁会の活動内容の詳細や、会の進出と列強の医療機関との関係、会の掲げた人道支援の理想と現実のギャップなど、様々なことが明らかになった。

中でも興味深い事実は、同仁会と博愛会との棲み分けと協力の事実である。博愛会は、台湾総督府の援助を受け中国東南部で医院を経営しており、その地域には同仁会は進出していない。

また、同仁会が亜熱帯性気候の地に進出する際には博愛会からスタッフを派遣して応援していた。そのような、医療活動の棲み分けや協力の事実は、植民地医学の前線配置がどのようになされていたのか、対象地域と医学研究・医療はどのように関係するのかについて考える上できわめて興味深い課題であると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、台湾総督府による博愛会を通じての中国東南部への医療支援政策とその医療の実態について明らかにすることによって、日本の植民地医学の中国大陸における前線配置とその推移を明らかにすることにある。

台湾総督府の医療政策には、台湾内を統治する上での医事衛生行政と対外政策としての医療支援策があった。本研究では、まず、1895 年（明治 28）の日本による台湾領有以来の医事衛生行政の展開過程と特徴を把握し、その上で対外政策としての医療支援の実態解明を行う。なぜなら、医療支援には、台湾植民の経験をふまえ、その中で育成された植民地医学が投入されたと考えられるからである。

それとともに明らかにすべきは、医療支援と台湾総督府の対岸経略すなわち中国東南部への外事戦略との関係である。台湾は日中戦争中には南進のための特殊な地位を付与され、総督府は華南や南洋で活発に活動したとされる（曹大臣「台湾総督府の外事政策」、松浦正孝編著『昭和・アジア主義の実像』ミネルヴァ書房、2007 年）。台湾総督府の外事政策の中に医療支援策を位置付ける作業を行う。

博愛会と同仁会との関係や博愛会と他の欧米系の医療機関との関係についても、政策や外交関係や戦争がどう関わってくるのかに注目しながら、明らかにしたいと考える。その上で、植民地医学が現地の人々に与えた影響について、総督府文書や中国の記録の分析を通じて考察する。

以上のことをふまえて台湾総督府による医療支援政策とその実態について明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究は文献および文書記録類を資料として、そこから歴史的事実を構成するという文献実証を方法論としてとる。
文献実証では、文献資料の収集・資料の目録作り・読解という作業を行う。

海外における調査に関しては、中国の歴史研究者・医学医療関係者・外交部（日本の外務省にあたる）関係者の方々の協力を得ながら、現地調査をすすめた。

また、外務省外交史料館や防衛庁防衛研究所図書館の史料調査にも行き、そこで得た史料の読み込みを行った。

博愛会で働いた医師のキャリアや人的つながりについても、調査をおこなった。すなわち、出身の大学医学部・医科大学、医学校についても傾向を調査した。

また、博愛会の財政基盤であった台湾総統府の動向を詳細に跡付ける作業もすすめた。

４．研究成果

研究成果は、以下の　点にまとめられる。①外交史料館蔵の博愛会関係資料を中心に史料の読み込みを行い、博愛会の設立当初の経緯を明らかにした。博愛会の事業は、台湾総督府が設立を発案し、医院の医師には台湾総督府の技師が派遣された。したがって、実質的には台湾総督府がイニシアチブをとった事業であった。しかし、対総督府感情および対日感情を考慮して、表向きは、華南地域在住の日本人、中国人、台湾籍民の合同で、医院の設立運営を行うという形式をとっていたことを示した。

②博愛会は日本の財団法人であり、行政上の監督は外務省が行うため、各地の日本領事が運営に関与していたことを明らかにした。

③総督府が華南へ日本の医院を置くことの真の目的は、台湾の華南への影響力の拡大にあった。特に華南の中国人の有力者を巻き込んで合同で病院経営にあたらせることで、密接な関係を築くことを意図した。

また、華南の諸医院を「台湾並びに日本本土の外線防疫」と位置づけていた。そのため、華南の伝染病の情報は、日本と台湾総督府に定期的に提供された。その情報源は、博愛会であった。

④防衛省防衛研究の史料調査を行い、各種『戦時旬報』『戦時月報』の記載から、日中戦争以降の博愛会の活動実態を抽出した。

それによって、日中戦争後の博愛会は、防疫、性病検査、施療など、軍に対する多様な後方支援を行っていたことを明らかにした。

⑥１９４０年には、戦争に対応するため、組織再編が行われ、新博愛会が設置された。

戦前までの医院経営では、職員数が約５０名であったが、１９４０年に新博愛会となってからは、職員数は２５６人、現地採用雇いの数を含めると１０００人という増加となったことを明らかにした。

⑦日本軍の南方への戦線拡大によって、仏印のハノイやサイゴン、ハイフォンへ医療者派遣の命令を受け、現地に派遣し診療所を開設していた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　５件）

① 末永恵子、死者との和解を求めて、季論２１、１９号，７４－８５ページ、２０１３年、査読無。

② 末永恵子、神谷昭典著『植民地医育論-台湾、朝鮮、“満蒙地域”を中心として』、１５年戦争と日本の医学医療研究会会誌１３巻１号、４１ページ、２０１２年、査読無。

③ 末永恵子、アジア太平洋戦争期における医育教育機関の卒業生の戦没者について、１５年戦争と日本の医学医療研究会会誌、１２巻１号、１５―２１ページ、２０１１年、査読無。

④ 西里扶甬子・末永恵子・王選、 中国浙江省衢州・崇山村・義烏における細菌戦被害の聞き取りの調査報告、１５年戦争と日本の医学医療研究会会誌、１１巻２号、２１－３４ページ、２０１１年、査読無。

⑤ 末永　恵子、日中戦争期における対中国医療支援事業の変容―同仁会の医療支援について―、 宮城歴史科学研究６８・６９合併号，２１－６０ページ、２０１１年、査読無。

〔学会発表〕（計１件）

研究発表

末永恵子、 台湾総督府による中国華南地域への医療支援、第１１５回日本医史学会総会、２０１４年5月３１日、太宰府市

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
中川　恵子（末永　恵子）
(NAKAGAWA KEIKO　SUENAGA KEIKO)
福島県立医科大学・医学部・講師
研究者番号：10315658

(2)研究分担者
なし
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
なし（　　）

研究者番号：